

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護度が高く自己表現が出来る方が少ない中、少しでも入居者それぞれの方の表情が穏やかで笑顔が見れる様、声掛けを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は介護老人保健施設やショートステイなどを併設した複合施設となっている。ユニット間は開放され、利用者は自由に行き来することができるほか、デイケアなどのイベントと一緒に参加し交流をしている。開設して10年が経過し、町内会長を始め地域の協力を得ながら地区防災訓練や行事に積極的に参加したり、地域住民からのサービス利用の相談に応じ、地域からの利用者が増えたりするなど、地域に根ざした事業所となっている。複合施設は耐震構造のため、災害発生時には避難場所として活用できることを地域に情報提供している。母体法人は医療機関のため、往診や24時間体制での連携が取れており、急変時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、看取りケアに積極的に取り組んでおり、「住み慣れたこの場所で最期を迎えたい」という利用者も多い。管理者は経験豊富で職員教育にも力を入れており、職員もやりがいを持ちながら日々のケアを実践しサービスの向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) のぎく

記入者(管理者)
氏名 岡本 末子

評価完了日 平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼時(週1回)施設としての理念を職員で復唱し、皆で共有、実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い、理念と介護理念、行動指針を作成している。理念の見直しについて検討したが「基本が大切である。」という職員からの意見が多く継続して使用している。毎週月曜日の申し送り時に理念を復唱し、職員の意識を高めている。また、介護理念と行動指針はユニット毎に掲示し、ことある毎に理念に立ち戻り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域での行事には可能な範囲で参加し、施設の行事(おもに夏祭り)への声掛けを行っているが、日常的とは言えない。	
			(外部評価) 町内会に加入し、町内会長等から地域の情報を得て夏祭りや地区防災訓練等の地域行事に利用者と一緒に参加している。地域住民からサービス利用の相談が多く、地元の利用者も増えてきている。気候の良い時には複合施設周辺を散歩しており、地域住民と挨拶を交わしている。演芸などのボランティアや、小学生が訪問し交流することを利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議(2ヶ月/回)にて施設の現状を報告、地域の方からも独居の方に対する関わりや支援をご報告いただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月/回実施、施設の現状報告や介護の現場を見ていただき、意見や感想を求め、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町内会正副会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では利用状況等を報告するほか、利用者と一緒に昼食を食べてもらったり講話を取り入れる工夫をしている。また、困難事例などを具体的に報告し事業所の実情を知ってもらったり、町内会のゴミ出しについて相談し複合施設前にゴミ収集所が設置されるなど、有意義な会議となっている。会議録は廊下に掲示し参加できなかった方等へ周知を図っている。職員も交代で会議に参加し、内容によっては申し送りで説明し、そこでの意見をサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に市の介護保険課の方にご出席頂き、意見や助言を頂いている。また対応困難事例等の相談を行う等連絡をとりあっている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、情報交換をしている。困難事例は直接担当窓口で相談して意見やアドバイスももらうなど、日頃から気軽に相談できる関係ができている。地域包括支援センター主催の研修にもできる限り参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会にて身体拘束について学んでいる。見守りを行い、スタッフ間の「報・連・相」を密にして利用者の安全を第一としているが、利用者の行動により危険が伴う場合は対策を考えている。	
			(外部評価) 複合施設の3階部分に事業所とショートステイが併設しているため、安全面を考慮してエレベーターロックをかけているが、ユニット間は開放し自由に行き来することができる。施設全体で身体拘束や虐待についての勉強会を実施し、理解して身体拘束等をしないケアに取り組んでいる。また、声かけなど言葉の拘束にも気をつけ、気になることがある場合は職員間で注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会にて虐待について学んでいる。更衣、入浴、トイレ時にボディチェックを行い、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて学んだ記憶はあるが、対象となる利用者に関わった事がなく、機会は持っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネが関わって説明を行い、理解、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けて意見、要望を家族様より頂いている。内容に関して施設からのコメントを提示している。家族会も実施。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけ意見を聞いている。ユニット毎に工夫されたお便りには手書きのメッセージを添え、請求書や献立表等と一緒に送付し、利用者の状況を分かりやすく報告している。また、意見箱を設置し、出された意見への返答を掲示するなど、家族から意見や要望が出しやすい工夫をしている。介護保険制度改正や出された意見への対応など必要に応じて家族会を開催して説明を行い、家族の意見を聞く機会も設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝の申し送りやユニット会で管理者より話がある場合はあるが、現場スタッフより運営について意見を出す機会はあまりない。	
			(外部評価) 月1回ユニット会議等で意見を出し合い、ユニットリーダーが意見を集約し管理者に伝えている。日々の業務の中でもユニットリーダーが職員の相談に応じている。ボーナスの支給時期に合わせて、自己評価を基にして個人面談を行い管理者等は意見を聞いている。出された意見で解決できない場合は管理者から施設長に伝えるなど、対応する仕組みができています。また、職員の技量や支援状況に応じて実技等の内部研修に力を入れており、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は管理者やスタッフの努力や取り組みを把握できてはいないと思う。勤務状況や労働時間についても同様。職場環境も改善に繋げて行きたいが、日々の業務以外の余裕がない。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加する機会は与えてもらっているがなかなか実践に繋がっていない。他部署のスタッフが参加し学んだ事を勉強会にて報告があり。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修や講習に参加し同業者との意見交換の場を持つ事ができたスタッフもいるが全員は困難で交流はできていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 声掛けを行い不安の解消や要望への相談に応えられるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談時に家族様から利用者様の入居までの様子をうかがって困っている事、不安な事に耳を傾けながら関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様より状況を教えていただき必要な支援を見極めて対応できるよう取り組んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様も個人でレベルが異なる為、暮らしを共にする関係を築くのが難しい場合がある。一方で話の中でタメになる事や自分の介護の経験が活かせる場合もあり、ケアの参考にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には日常の様子を報告し安心して頂けるよう努めている。またスタッフから見た利用者様だけでなく家族様からの視点もあり、参考にさせていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様の面会が大半を占めており、馴染みの人や場所の話聞く事はあっても支援は出来ていない。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握している。日々の会話の中で聞き取った内容は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。野球好きの利用者は球場に観戦に行くことは難しいがテレビで野球観戦を楽しんでもらっている。気の合う利用者同士の座席を配慮するなど、馴染みの関係づくりも支援している。認知症の進行や重度化に伴い、馴染みの関係の継続支援が難しくなっている。	職員は利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握しているが、把握した内容で支援可能なことはないか確認したり、町内の利用者が増えたことで馴染みの近くの場所で交流する機会づくりをしたりするなど、利用者が今まで大切にしてきた人や場所との関係が途切れない支援を、職員間で話し合い実現できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係の把握は記録や申し送り等でできているが、レベルに大きく差があり利用者同士が関わり支える支援は困難である。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 夏祭り時に偲ぶ会を行い、以前入所されていた方の家族様にご出席頂く事ができた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや意見を傾聴し、穏やかに生活していけるよう努めている。意見の言えない方に関しては自分ならどうしてほしいか考えたりスタッフ間で話し合っている。	
			(外部評価) 日々の会話の中や1対1となる場面でゆっくり話しをする時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者には、日々の関わりの中で嬉しそうな表情や辛そうな表情、行動等で気持ちをくみ取り、申し送りやカンファレンス等で職員間で話し合い、利用者本位のサービスを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様からの話やフェイスシート、サマリーより情報を取り入れている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の状況をよく観察し、スタッフ間での情報交換も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを行い、本人、家族の意見や希望を聞いた上で現状に即した介護計画を立て、それに基づいたケアを行っている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を聞き取り、必要なことを絞って暫定の介護計画を立て、1か月後に家族を含む関係者でカンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者一人ひとりの計画に沿ったサービス内容が職員に一目で分かるような書式を工夫して作成しており、毎日ケアチェック表の記録を確認して、毎月モニタリングを実施している。3～6か月毎に介護計画の見直しを行うほか、状況に応じてその都度見直しするなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録や生活日誌に一日の様子を残して情報を共有してケアの参考にしてしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望や意見を傾聴し、都度対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の包括や行政との意見交換の場を設けて、地域の内情を把握して参考にしてしている。行事の時にはボランティアの協力や消防訓練では消防署の協力を得て行っている。又、買い物、ドライブで地域の商店を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望に沿ってかかりつけ医を決定し、受診出 来ている。緊急時にも迅速な対応が取れるようスタッフ間 で情報を共有している。	
			(外部評価) 入居時に母体法人が医療機関であることを説明し、月2回 の往診や急変時にも迅速に対応できることから、利用者や 家族が希望して母体医院をかかりつけ医へ変更する場合が 多い。利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て 継続して受診することもできる。歯科医の往診の対応もす ることができる。皮膚科などの専門医も家族の協力を得て 受診することができ、適切な医療を安心して受けられるよ う支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の方の体調変化は、日頃の観察を大切にし、急変時 には2階看護師に報告し対応している。日常的に相談する 事も出来、適切な受診や処置を受ける事も出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は不安やストレス軽減の為、面会している。管理者 が、本人家族の意向を聞き、病院関係者と情報交換を密に している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に管理者が本人・家族にターミナルケアの説明をし て、理解してもらっている。状況に応じ、家族、ドク ター、看護師、管理者、スタッフで話し合い方針の共有を している。	
			(外部評価) 「医療連携体制に係る指針」を作成し、入居時に事業所と して対応できる内容を説明し確認している。今年度3名の 看取りを経験している。看取りを希望する利用者や家族に は、状態の変化に応じて医師から説明をしている。日頃か ら職員は看取り等の勉強会を重ね、看取り支援を行う場合 には医師や看護師、関係者と細かく話し合い、ユニット間 で連携を図りながら、利用者や家族が安心して最期が迎え られるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルの確認、勉強会や研修に参加し、実践力を身につけるよう努めている。訓練は定期的に行えていないが、看護師が常時おり、早期対応は出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に昼と夜間設定対応の消防訓練を行っており、避難経路の確認をしている。 (外部評価) 複合施設全体で年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て具体的なアドバイスを得ている。防災等の対応マニュアルを作成し、避難経路や防火扉の確認等を行い、職員の防災意識を高めている。地震対策としてタンスの固定をしているが、未実施の箇所もある。事業所のある複合施設は耐震構造の建物であるため、災害発生時には地域の避難場所として提供できることを地域に発信している。地区の防災訓練には職員が参加したり、緊急連絡網には地域住民も入ってもらったりするなど、相互の協力体制ができている。また、水や食料などの備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという事を心掛け、声掛けに十分配慮し、プライバシー保護に努めている。又、利用者間の兼ね合いも考慮し、ケアを行っている。 (外部評価) オムツ交換や排泄時には必ず戸を閉めるなど、職員自身が恥ずかしいと思うことはしない対応を心がけている。利用者一人ひとりの体調は1対1で聞き取り、他の利用者に聞かれないようプライバシーにも配慮し、個人情報外部に持ち出さないよう徹底している。名前は名字で呼び、「じいちゃん、ばあちゃん」などと呼ばないように注意している。利用者の人格を尊重し、羞恥心やプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望に沿うよう訴えに傾聴し、努めている。自己決定に伴う危険がある場合、利用者が重度化の為、自己決定できない時、介護員サイドで決めてしまっている事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしているが、共同生活にあたり、ある程度の決まりは守っていただいている。多忙な為、スタッフペースになる場合もあり、業務の見守りや他ユニットの現状も参考にして工夫していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔に心掛け、起床時、入浴時、身だしなみのチェックをしている。食事時の口周りの汚れ等気をつけている。理容、美容は本人&家族の希望に添い、カット・カラー・パーマをされている。施設指定でなく、御家族でされている方もいらっしゃる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備はもやしの根切り、食後は食器拭き、おしぼり巻き、エプロンたたみなど、限られた利用者の方ではあるが、無理のないよう時には話しながら手伝っていただいている。又、食の楽しみとしておしゃべりしながら過ごされている。	
			(外部評価) 複合施設の管理栄養士が献立を作成して食材を発注し、ユニット毎に職員が調理をしている。月2回「自由献立の日」を設け、普段聞き取った利用者の好みを取り入れた1日3食の食事を提供し、利用者も楽しみにしている。職員は食事介助をし、利用者は会話を楽しみながら食事をしている。誕生日会には利用者の希望を聞き、ユニット毎に食事等を楽しんでいる。刻み食が多くなり利用者全員での外食は難しいが、庭でバイキングをしたり喫茶店などでお茶やケーキを食べたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。また、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養バランスを考え、献立を決めている。1日の水分量、食事量のチェックを行っている。必要に応じて度々声掛けしたり、本人のお好きな物を食してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、自力で出来る方はしていただいている。うがいが出来ない方は(自力)介助にて白湯を利用し、口腔ケアを行っている。義歯の方は夕食後、洗浄剤を使用、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の残存能力を生かし、排泄パターンを把握し、声掛けトイレ誘導を行っている。月/回のユニット会で個々のパット・オムツは適性であるか、話し合い改善に努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導してトイレでの排泄を支援している。オムツを使用していた利用者が、トイレ誘導することでトレーニングパンツの使用になった事例もある。皮膚疾患のある利用者には個別対応したり、状態に合わせてポータブルトイレを使用するなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便チェックを行い、水分摂取や腹部マッサージ等、予防に努めている。便秘時は、センナ茶や下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回、曜日、時間帯を決めて利用者の方に入浴していただいている。外出や体調により変更しているが、一人一人の希望には添えていない。	
			(外部評価) 週3回を基本として、1対1でゆっくりリラックスして入浴することができる。利用者の状態に応じて、リフト浴や機械浴、リクライニングシャワーチェアなどを使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には職員が交代して声かけをしたり、タイミングや時間をずらしたりするなど、スムーズに入浴できた時の情報を職員間で共有し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望や体調により居室で休息していただいている。不眠の方は投薬にて安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬情報に目を通し、一人一人服用する目的、副作用等理解している。症状の変化があれば、医療と連携しケアに努めている。日勤帯で翌日の服薬セット、夜勤者が確認、服薬時の2人チェックで、誤薬防止している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族に好きな嗜好品を持って来て頂き、楽しまれています。施設の行事やユニット内のレクにて楽しんだり、お手伝いにより気分転換していただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力により、外食、外出が全員ではないが出来ている。又、地域の行事にも積極的に参加している。その日の希望にそっての外出は出来ていないが、気候の良い時期の外出を心がけ計画している。 (外部評価) 季節毎に外出計画を立て、桜やコスモスなどの花見に出かけている。気候の良い時には、事業所周辺を散歩したり近所のコンビニに出かけたりしている。ドライブがてら買い物に行ったり、喫茶店等でお茶を楽しんだりすることもある。1階にあるデイケアのイベントに参加し、一緒に楽しむこともある。庭でのつくし採りは恒例となり、利用者の楽しみの一つである。また、家族と外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 遠出のドライブ、移動パンや近くのコンビニへの買い物等しているが、直接お金の所持はしていない。家族からの預り金よりスタッフが代わって支払いしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で電話できる方は、希望により携帯電話を持たれている。又、本人の希望があれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有の空間は、毎日掃除し空調に気をつけてカーテンやブラインドの調節を行い快適に過ごせるよう努めている。台所の音や香りで生活感、時々季節の花を生けて楽しんでもらっているが、工夫がまだまだ必要である。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、大きな柱があり見えにくい所もあるが机やソファの配置を工夫している。広さを活かし、大勢の小学生を受け入れ一緒にイベントを楽しんでいる。また、昔の懐かしい古いタンスを置くなど、利用者の過ごしやすい雰囲気づくりをしている。壁には行事の写真を飾ったり、テーブル等には庭に咲いていた季節の花を飾ったりしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホール内のソファやベランダ近くの廊下に椅子を置いており、面会時御家族とソファや椅子を思い思いに使っていただいています。利用者の方もソファで休まれたり、仲良い方同士テレビを観て過ごされています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ベッド以外は、個々に使い慣れた寝具、化粧品等や思い入れのある物を持参していただき、飾っています。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドと整理タンスを備え付けている。利用者は使い慣れた寝具やドレッサー、時計、ぬいぐるみなどを持ち込むことができる。利用者の中には、位牌を置いたり、家族の写真を飾ったりするなど、家族の協力を得ながら利用者に合わせた居心地良く過ごせる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリー、手すりが建物全てにあり、安全かつ自立した生活を送っていただいている。殆どの方が介助が必要な為、残存能力を活かしていただけるよう配慮していきたい。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が穏やかに過ごせて1日のどかで笑顔が見えるような支援を頑張っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は介護老人保健施設やショートステイなどを併設した複合施設となっている。ユニット間は開放され、利用者は自由に行き来することができるほか、デイケアなどのイベントと一緒に参加し交流をしている。開設して10年が経過し、町内会長を始め地域の協力を得ながら地区防災訓練や行事に積極的に参加したり、地域住民からのサービス利用の相談に応じ、地域からの利用者が増えたりするなど、地域に根ざした事業所となっている。複合施設は耐震構造のため、災害発生時には避難場所として活用できることを地域に情報提供している。母体法人は医療機関のため、往診や24時間体制での連携が取れており、急変時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、看取りケアに積極的に取り組んでおり、「住み慣れたこの場所で最期を迎えたい」という利用者も多い。管理者は経験豊富で職員教育にも力を入れており、職員もやりがいを持ちながら日々のケアを実践しサービスの向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 岡本 末子

評価完了日

平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を見やすい所に掲示し、週1回管理者、職員で復唱し、実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い、理念と介護理念、行動指針を作成している。理念の見直しについて検討したが「基本が大切である。」という職員からの意見が多く継続して使用している。毎週月曜日の申し送り時に理念を復唱し、職員の意識を高めている。また、介護理念と行動指針はユニット毎に掲示し、ことある毎に理念に立ち戻り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 隔月、運営推進会議を行っている。地域の祭りに参加させて頂き、近くの小学生との交流もある。	
			(外部評価) 町内会に加入し、町内会長等から地域の情報を得て夏祭りや地区防災訓練等の地域行事に利用者と一緒に参加している。地域住民からサービス利用の相談が多く、地元の利用者も増えてきている。気候の良い時には複合施設周辺を散歩しており、地域住民と挨拶を交わしている。演芸などのボランティアや、小学生が訪問し交流することを利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて、さまざまな状態、認知症の例を挙げて、理解して頂ける様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービスの現状をお伝えしている。話し合いをして、意見などを頂き、サービス向上に活かせる様、努力している。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町内会正副会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では利用状況等を報告するほか、利用者と一緒に昼食を食べてもらったり講話を取り入れる工夫をしている。また、困難事例などを具体的に報告し事業所の実情を知ってもらったり、町内会のゴミ出しについて相談し複合施設前にゴミ収集所が設置されるなど、有意義な会議となっている。会議録は廊下に掲示し参加できなかった方等へ周知を図っている。職員も交代で会議に参加し、内容によっては申し送りで説明し、そこでの意見をサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて、包括支援センター、市介護保険課の職員さんに参加して頂き、意見交換をしている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、情報交換をしている。困難事例は直接担当窓口で相談して意見やアドバイスももらうなど、日頃から気軽に相談できる関係ができています。地域包括支援センター主催の研修にもできる限り参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、エレベーターの施錠は、安全を確保する上で行っている。身体拘束は家族様の同意のもと行うが、現在身体拘束を行っている方はいない。	
			(外部評価) 複合施設の3階部分に事業所とショートステイが併設しているため、安全面を考慮してエレベーターロックをかけているが、ユニット間は開放し自由に行き来することができる。施設全体で身体拘束や虐待についての勉強会を実施し、理解して身体拘束等を行わないケアに取り組んでいる。また、声かけなど言葉の拘束にも気をつけ、気になることがある場合は職員間で注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケガ、アザ等、作らない様に無理のない介助を心がけている。職員間で話し合い、優しく接する様心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会があったが、現在、活用する対象者がいない為、話し合いの機会もない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や解約の業務に直接携わっていないが、入所の際、しっかり説明して理解して頂いていると思う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) カンファレンス、面会時に利用者様や家族様の要望を聞き、ケアプランに取り入れている。管理者、職員間の報告で統一し、対応している。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけ意見を聞いている。ユニット毎に工夫されたお便りには手書きのメッセージを添え、請求書や献立表等と一緒に送付し、利用者の状況を分かりやすく報告している。また、意見箱を設置し、出された意見への返答を掲示するなど、家族から意見や要望が出しやすい工夫をしている。介護保険制度改正や出された意見への対応など必要に応じて家族会を開催して説明を行い、家族の意見を聞く機会も設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニット会を行い、管理者、職員全員出席して、意見を出し合っている。 (外部評価) 月1回ユニット会議等で意見を出し合い、ユニットリーダーが意見を集約し管理者に伝えている。日々の業務の中でもユニットリーダーが職員の相談に応じている。ボーナスの支給時期に合わせて、自己評価を基にして個人面談を行い管理者等は意見を聞いている。出された意見で解決できない場合は管理者から施設長に伝えるなど、対応する仕組みができています。また、職員の技量や支援状況に応じて実技等の内部研修に力を入れており、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者により、職員の状況を把握されている。資格取得等、できる様々な職場環境を作ってもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回勉強会を行っている。外部研修も参加できる様、研修の機会が用意されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域のGHの勉強会等に参加し、交流を深めている。情報交換をしサービスの向上に繋がっていると思う。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様と直に話し合い、要望や不安な事は必ずお聞きしている。コミュニケーションをたくさん取り、安心して生活できる様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様からの要望や不安に対して何でも言ってもらえる様な環境作りとそれに対して検討し、適した対応になる様務めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様と家族様の要望をお聞きし、本人様の心身の状態に合わせてその時に必要な対応を決定している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様に色々なお話を聞かせていただき、意見や気持ちを理解し尊重するようにしている。レクリエーション等で互いに共有できる場を設けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月のお便りやカンファレンスの参加の呼びかけを行っている。面会時の家族様の意見に耳を傾け、職員間で共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会や外出は希望に添って、自由にして頂いている。関係が途切れない様に個別に支援する事は難しい。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握している。日々の会話の中で聞き取った内容は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。野球好きの利用者は球場に観戦に行くことは難しいがテレビで野球観戦を楽しんでもらっている。気の合う利用者同士の座席を配慮するなど、馴染みの関係づくりも支援している。認知症の進行や重度化に伴い、馴染みの関係の継続支援が難しくなってきた。	職員は利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握しているが、把握した内容で支援可能なことはないか確認したり、町内の利用者が増えたことで馴染みの近くの場所で交流する機会づくりをしたりするなど、利用者が今まで大切にしてきた人や場所との関係が途切れない支援を、職員間で話し合い実現できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の相性や性格等を考え、席の配置も考えている。レクリエーション等で利用者様同士と一緒に楽しめる場を設けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方の支援は難しい。相談があった場合は支援に努めていきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活の中で気付きを大切にし、一人一人の生活リズムを尊重できる様、努めている。又、困難な場合は表情の中からくみ取ったり、家族と相談の上、検討している。 (外部評価) 日々の会話の中や1対1となる場面でゆっくり話しをする時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者には、日々の関わりの中で嬉しそうな表情や辛そうな表情、行動等で気持ちをくみ取り、申し送りやカンファレンス等で職員間で話し合い、利用者本位のサービスを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを参考に把握し、また本人様、家族様よりお聞きした情報は職員間で共有できる様、努めている。その人らしく生活できる様、取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の1日の生活を記録し現状把握に努めている。スタッフ間での情報交換で日々の変化に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族様に出来るだけ、カンファレンスに参加して頂き、本人様、家族、職員とで話し合い、意見や要望を組み入れ、現状を考慮しながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を聞き取り、必要なことを絞って暫定の介護計画を立て、1か月後に家族を含む関係者でカンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者一人ひとりの計画に沿ったサービス内容が職員に一目で分かるような書式を工夫して作成しており、毎日ケアチェック表の記録を確認して、毎月モニタリングを実施している。3～6か月毎に介護計画の見直しを行うほか、状況に応じてその都度見直しするなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 様子やケア、サービスの実施等、日々個別に記録している。職員間では申し送りや連絡ノートにより、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望、状況に応じて、本人様のニーズに対応するための必要なサービスは管理者、職員で話し合い、可能な限り取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティア、消防訓練等、楽しく、安全な生活が出来る様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族様の希望に添って、かかりつけ医を決めて頂い ており、希望受診が出来る様、支援している。適切な医療 は提供できていると思う。	
			(外部評価) 入居時に母体法人が医療機関であることを説明し、月2回 の往診や急変時にも迅速に対応できることから、利用者や 家族が希望して母体医院をかかりつけ医へ変更する場合が 多い。利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て 継続して受診することもできる。歯科医の往診の対応もす ることができる。皮膚科などの専門医も家族の協力を得て 受診することができ、適切な医療を安心して受けられるよ う支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設には24時間体制でナースが常駐しており、利用者の 特変時には、いつでも連絡を取り、対応する体制が整って いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時サマリーにて病院関係者との情報交換は出来てい る。退院時にはドクター、家族と一緒に相談して退院後の 対応がスムーズに出来るよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階からドクター、家族、事業所とで話し合い、家族 の希望される方針を職員間で共有し、統一して支援してい ける体制をとっている。	
			(外部評価) 「医療連携体制に係る指針」を作成し、入居時に事業所と して対応できる内容を説明し確認している。今年度3名の 看取りを経験している。看取りを希望する利用者や家族に は、状態の変化に応じて医師から説明をしている。日頃か ら職員は看取り等の勉強会を重ね、看取り支援を行う場合 には医師や看護師、関係者と細かく話し合い、ユニット間 で連携を図りながら、利用者や家族が安心して最期が迎え られるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会に参加したり、マニュアルに目を通したりしているが、全職員が訓練を受けている訳ではなく不安はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回は防災訓練を行い、消防署や地域の方と協力して安全に避難できるように取り組んでおり、マニュアルも作成している。 (外部評価) 複合施設全体で年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て具体的なアドバイスを得ている。防災等の対応マニュアルを作成し、避難経路や防火扉の確認等を行い、職員の防災意識を高めている。地震対策としてタンスの固定をしているが、未実施の箇所もある。事業所のある複合施設は耐震構造の建物であるため、災害発生時には地域の避難場所として提供できることを地域に発信している。地区の防災訓練には職員が参加したり、緊急連絡網には地域住民も入ってもらったりするなど、相互の協力体制ができている。また、水や食料などの備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、一人一人の人格を尊重し、優しい声掛けや、思いやりを持った対応を心がけている。 (外部評価) オムツ交換や排泄時には必ず戸を閉めるなど、職員自身が恥ずかしいと思うことはしない対応を心がけている。利用者一人ひとりの体調は1対1で聞き取り、他の利用者に聞かれないようプライバシーにも配慮し、個人情報外部に持ち出さないよう徹底している。名前は名字で呼び、「じいちゃん、ばあちゃん」などと呼ばないように注意している。利用者の人格を尊重し、羞恥心やプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の声に耳を傾け、ご本人の意志に応じて支援が出来るよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の好みやライフスタイルをできるだけ把握し、なるべくその方のペースを大切にし、安全を確保しつつ支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月1回の理美容を活用し、毎朝の整容や季節に合った服装など、それぞれの利用者に合った身だしなみ・おしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 現在、食事の準備が出来る方はいらっしゃらないが、出来る方には食後の食器拭きをして頂いている。	
			(外部評価) 複合施設の管理栄養士が献立を作成して食材を発注し、ユニット毎に職員が調理をしている。月2回「自由献立の日」を設け、普段聞き取った利用者の好みを取り入れた1日3食の食事を提供し、利用者も楽しみにしている。職員は食事介助をし、利用者は会話を楽しみながら食事をしている。誕生会には利用者の希望を聞き、ユニット毎に食事等を楽しんでいる。刻み食が多くなり利用者全員での外出は難しいが、庭でバイキングをしたり喫茶店などでお茶やケーキを食べたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。また、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事・水分の摂取量を記録・把握しており、声掛けや介助は必要に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアしており、義歯の方は毎晩洗浄し清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。そのことがオムツ減らしにも繋がっている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導してトイレでの排泄を支援している。オムツを使用していた利用者が、トイレ誘導することでトレーニングパンツの使用になった事例もある。皮膚疾患のある利用者には個別対応したり、状態に合わせてポータブルトイレを使用するなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便チェックを行ない、一人一人に合わせて必要に応じて、下剤やセンナ茶の活用や、適度な運動の実施など便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回程度は入浴して頂けるよう、曜日・時間はある程度は決めているが、無理強いせず一人一人が少しでも入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
			(外部評価) 週3回を基本として、1対1でゆっくりリラックスして入浴することができる。利用者の状態に応じて、リフト浴や機械浴、リクライニングシャワーチェアーなどを使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には職員が交代して声かけをしたり、タイミングや時間をずらしたりするなど、スムーズに入浴できた時の情報を職員間で共有し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の日々の体調や希望に応じて、服装、室温、体位など調整し、ゆっくり休んで頂ける環境が整うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の薬の情報を職員が把握できる環境を整えており、服薬時、誤薬のないよう毎回本人確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日レクリエーションを行い、お手伝いやリハビリ、又、飲酒喫煙など一人一人に合わせた支援を行なっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力がある利用者は定期的に外出できている。他の方には、外出イベントを設け、なるべく参加していただけるよう支援している。が、一人一人の希望に添ったそれは出来ていない。 (外部評価) 季節毎に外出計画を立て、桜やコスモスなどの花見に出かけている。気候の良い時には、事業所周辺を散歩したり近所のコンビニに出かけたりしている。ドライブがてら買い物に行ったり、喫茶店等でお茶を楽しんだりすることもある。1階にあるデイケアのイベントに参加し、一緒に楽しむこともある。庭でのつくし採りは恒例となり、利用者の楽しみの一つである。また、家族と外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は難しく職員が一括して行っているが、買い物の際は出来る方には自身で支払っていただき、他の方は職員が代行して、買い物を楽しんでもらえるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される時は本人が電話できるよう支援している。手紙も必要があれば代筆している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 写真展示や生花など季節に合わせた飾り付けを行っている。又、台所とフロアが同じ空間にある為、調理の匂いなど生活感を感じてもらえていると思う。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、大きな柱があり見えにくい所もあるが机やソファの配置を工夫している。広さを活かし、大勢の小学生を受け入れ一緒にイベントを楽しんでいる。また、昔の懐かしい古いタンスを置くなど、利用者の過ごしやすい雰囲気づくりをしている。壁には行事の写真を飾ったり、テーブル等には庭に咲いていた季節の花を飾ったりしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人の相性や希望に応じた席の配置に気を配っており、お席やソファで各々がTVを観たり、お話をしたり出来るよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 思い出の物や使い慣れた物を持ってきていただいたり、ご家族の写真や小物を置いたりして、本人が居心地の良いその人らしい部屋になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドと整理タンスを備え付けている。利用者は使い慣れた寝具やドレッサー、時計、ぬいぐるみなどを持ち込むことができる。利用者の中には、位牌を置いたり、家族の写真を飾ったりするなど、家族の協力を得ながら利用者に合わせた居心地良く過ごせる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーで広々としており、安全でのびのびとした生活を送っていただいている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療との連携がしっかりとれている為、入居者また家族に安心して過ごしていただいている。100歳以上が3名おられるが、毎日穏やかな表情で笑顔も多く見られている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は介護老人保健施設やショートステイなどを併設した複合施設となっている。ユニット間は開放され、利用者は自由に行き来することができるほか、デイケアなどのイベントと一緒に参加し交流をしている。開設して10年が経過し、町内会長を始め地域の協力を得ながら地区防災訓練や行事に積極的に参加したり、地域住民からのサービス利用の相談に応じ、地域からの利用者が増えたりするなど、地域に根ざした事業所となっている。複合施設は耐震構造のため、災害発生時には避難場所として活用できることを地域に情報提供している。母体法人は医療機関のため、往診や24時間体制での連携が取れており、急変時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、看取りケアに積極的に取り組んでおり、「住み慣れたこの場所で最期を迎えたい」という利用者も多い。管理者は経験豊富で職員教育にも力を入れており、職員もやりがいを持ちながら日々のケアを実践しサービスの向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)

氏名 岡本 末子

評価完了日

平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎週月曜日には朝、申し送り時に管理者と職員が復唱し理念を忘れることなく実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い、理念と介護理念、行動指針を作成している。理念の見直しについて検討したが「基本が大切である。」という職員からの意見が多く継続して使用している。毎週月曜日の申し送り時に理念を復唱し、職員の意識を高めている。また、介護理念と行動指針はユニット毎に掲示し、ことある毎に理念に立ち戻り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方とのふれあいを大切にし、地域事業への参加、運営推進会議などを通して交流を深めている。	
			(外部評価) 町内会に加入し、町内会長等から地域の情報を得て夏祭りや地区防災訓練等の地域行事に利用者と一緒に参加している。地域住民からサービス利用の相談が多く、地元の利用者も増えてきている。気候の良い時には複合施設周辺を散歩しており、地域住民と挨拶を交わしている。演芸などのボランティアや、小学生が訪問し交流することを利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して認知症を理解していただいている。時には勉強会や状況説明を行ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方や家族への報告を行い、話し合いを持っている。家族会もひらき、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町内会正副会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では利用状況等を報告するほか、利用者と一緒に昼食を食べてもらったり講話を取り入れる工夫をしている。また、困難事例などを具体的に報告し事業所の実情を知ってもらったり、町内会のゴミ出しについて相談し複合施設前にゴミ収集所が設置されるなど、有意義な会議となっている。会議録は廊下に掲示し参加できなかった方等へ周知を図っている。職員も交代で会議に参加し、内容によっては申し送りで説明し、そこでの意見をサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にも出席していただき状況を説明し意見や相談にもっていただいている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、情報交換をしている。困難事例は直接担当窓口で相談して意見やアドバイスをもらうなど、日頃から気軽に相談できる関係ができています。地域包括支援センター主催の研修にもできる限り参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず、状況、状態に応じ危険と思われる際には家族へ説明し了承を得た上で、同意書をいただき安全なケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 複合施設の3階部分に事業所とショートステイが併設しているため、安全面を考慮してエレベーターロックをかけているが、ユニット間は開放し自由に行き来することができる。施設全体で身体拘束や虐待についての勉強会を実施し、理解して身体拘束等をしないケアに取り組んでいる。また、声かけなど言葉の拘束にも気をつけ、気になることがある場合は職員間で注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は利用者の変化に早く気付くよう観察しトイレ、入浴介助の際にもチェックを行い、ささいな事でも職員同士話し合い、報告書にあげ同じ事を繰り返さないよう取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について理解できておらず、対象者も居ない為、活用ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される際、管理者、担当者の方から十分な説明を行い、納得していただいている。変更の際には話し合いの場を設け、説明も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置している。面会時やカンファレンスの際には利用者、家族の要望も聞き、可能な事は運営にも反映している。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけ意見を聞いている。ユニット毎に工夫されたお便りには手書きのメッセージを添え、請求書や献立表等と一緒に送付し、利用者の状況を分かりやすく報告している。また、意見箱を設置し、出された意見への返答を掲示するなど、家族から意見や要望が出しやすい工夫をしている。介護保険制度改正や出された意見への対応など必要に応じて家族会を開催して説明を行い、家族の意見を聞く機会も設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員は現場の状況、不安、困っている事等それぞれの思いを話し合い、管理者につげ、月1回のユニット会にて話している。 (外部評価) 月1回ユニット会議等で意見を出し合い、ユニットリーダーが意見を集約し管理者に伝えている。日々の業務の中でもユニットリーダーが職員の相談に応じている。ボーナスの支給時期に合わせて、自己評価を基にして個人面談を行い管理者等は意見を聞いている。出された意見で解決できない場合は管理者から施設長に伝えるなど、対応する仕組みができています。また、職員の技量や支援状況に応じて実技等の内部研修に力を入れており、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自が意欲を持ち研修にも参加し、資格の取得が出来るよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月1回職員のスキルアップの為に勉強会を行っているが、法人外の研修は参加できる機会が少ない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会に参加させていただき、他の事業所とも交流を持ち、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者や担当者が本人に話を聞き、安心して入所していただけるよう努めている。入所されてからは、日常生活の会話やカンファ時に意見を聞き、関係が作れるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 些細な事でも報告を行い、困っている事、要望も気兼ねなく話をしていただける関係を作り利用者にあったケアが出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族としっかり対話をし、意見や要望を尊重し様々な視点から考えた対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が安心して過ごせるよう声をかけ色々な話をし、手伝い等もしてもらって信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常生活の報告をさせていただき、家族との信頼関係をしっかり作り、行事にも一緒に参加してもらう等、協力して利用者を支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、親戚の方の面会はよく来られている。会話の中で職員が気付き、関係が途切れないよう家族への協力をお願いし、支援に努めている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握している。日々の会話の中で聞き取った内容は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。野球好きの利用者は球場に観戦に行くことは難しいがテレビで野球観戦を楽しんでもらっている。気の合う利用者同士の座席を配慮するなど、馴染みの関係づくりも支援している。認知症の進行や重度化に伴い、馴染みの関係の継続支援が難しくなっている。	職員は利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握しているが、把握した内容で支援可能なことはないか確認したり、町内の利用者が増えたことで馴染みの近くの場所で交流する機会づくりをしたりするなど、利用者が今まで大切にしてきた人や場所との関係が途切れない支援を、職員間で話し合い実現できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士話しやすい環境作りをしレクリエーションの時間を設けコミュニケーションをとれる空間を作れるよう、職員が中に入り支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 節目の行事には招待状を出し、出席していただけるようにし、思い出話など繋がりを持っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での気付きを大切にし、本人や家族の要望に添えるよう、カンファレンス等で話し合い検討している。 (外部評価) 日々の会話の中や1対1となる場面でゆっくり話しをする時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者には、日々の関わりの中で嬉しそうな表情や辛そうな表情、行動等で気持ちをくみ取り、申し送りやカンファレンス等で職員間で話し合い、利用者本位のサービスを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活パターンや習慣を本人や家族から聞き、またフェイスシートを活用し、その人らしく楽しく生活ができるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の心身状態、体調の変化に応じて生活の支援を変更したり、必要に応じて医療との連携を取り、対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスに家族にも参加していただき、本人も交え、要望、困っている事、問題点について話し合う。状況に合わせてプラン見直しを行い作成している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を聞き取り、必要なことを絞って暫定の介護計画を立て、1か月後に家族を含む関係者でカンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者一人ひとりの計画に沿ったサービス内容が職員に一目で分かるような書式を工夫して作成しており、毎日ケアチェック表の記録を確認して、毎月モニタリングを実施している。3～6か月毎に介護計画の見直しを行うほか、状況に応じてその都度見直しするなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員の気付きがあれば職員同士が声掛けし連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出時（病院への受診）ヘルパー等の支援・サービスの多機能化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事の際、ボランティアの協力のもと安心安全な暮らしが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望にてヘルパーや家族の協力のもと受診し ている。受診が難しい方に訪問にて来ていただく事もある。	
			(外部評価) 入居時に母体法人が医療機関であることを説明し、月2回 の往診や急変時にも迅速に対応できることから、利用者や 家族が希望して母体医院をかかりつけ医へ変更する場合が 多い。利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て 継続して受診することもできる。歯科医の往診の対応もす ることができる。皮膚科などの専門医も家族の協力を得て 受診することができ、適切な医療を安心して受けられるよ う支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 24時間、看護師がいる為、状態の変化、異常時には報告 を行い、指示にて支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院ではサマリーを作成し、入院時には管理者、担当者 が再々足を運び、利用者の状態を確認し家族、医療との連 携をとり、退院日が決まったら管理者、担当者が必ず病 院、医療との話に立ち合い情報を受け対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「看取りに関する指針」を家族に何度も説明を行い、家族 の要望をふまえ、医療、ナース、管理者、職員全員で方針 を共有している。職員のメンタル面においても管理者が配 慮してくれている。	
			(外部評価) 「医療連携体制に係る指針」を作成し、入居時に事業所と して対応できる内容を説明し確認している。今年度3名の 看取りを経験している。看取りを希望する利用者や家族に は、状態の変化に応じて医師から説明をしている。日頃か ら職員は看取り等の勉強会を重ね、看取り支援を行う場合 には医師や看護師、関係者と細かく話し合い、ユニット間 で連携を図りながら、利用者や家族が安心して最期が迎え られるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を定期的に行っており、急変や事故が起こった際、即ナースへ連絡を取り状況報告を的確にしっかり行い、指示を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昼、夜間帯での消防、避難訓練を定期的にもち確認をしている。職員の連絡網も作成し職員一人一人が持っており時折連絡を流し確認も取っている。 (外部評価) 複合施設全体で年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て具体的なアドバイスをもらっている。防災等の対応マニュアルを作成し、避難経路や防火扉の確認等を行い、職員の防災意識を高めている。地震対策としてタンスの固定をしているが、未実施の箇所もある。事業所のある複合施設は耐震構造の建物であるため、災害発生時には地域の避難場所として提供できることを地域に発信している。地区の防災訓練には職員が参加したり、緊急連絡網には地域住民も入ってもらったりするなど、相互の協力体制ができている。また、水や食料などの備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は理念と指針を心に持ち利用者の人格を尊重した言葉掛けをするよう心がけ対応をしている。 (外部評価) オムツ交換や排泄時には必ず戸を閉めるなど、職員自身が恥ずかしいと思うことはしない対応を心がけている。利用者一人ひとりの体調は1対1で聞き取り、他の利用者に聞かれないようプライバシーにも配慮し、個人情報外部に持ち出さないよう徹底している。名前は名字で呼び、「じいちゃん、ばあちゃん」などと呼ばないように注意している。利用者の人格を尊重し、羞恥心やプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何気ない日常の会話の中、本人の思いを感じ取りながら利用者の思い、希望に添えるよう自己決定を出しやすい環境に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 健康状態、本人希望を考えながら、一人一人のペースを大切に支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎月の理容、美容や入浴、お出かけ、行事の際の服装など本人のこだわりを大切に支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切りや食器拭き等出来る事を積極的にしていただきながら、食事の好みを大切に楽しんでいただけるよう支援している。	
			(外部評価) 複合施設の管理栄養士が献立を作成して食材を発注し、ユニット毎に職員が調理をしている。月2回「自由献立の日」を設け、普段聞き取った利用者の好みを取り入れた1日3食の食事を提供し、利用者も楽しみにしている。職員は食事介助をし、利用者は会話を楽しみながら食事をしている。誕生日会には利用者の希望を聞き、ユニット毎に食事等を楽しんでいる。刻み食が多くなり利用者全員での外出は難しいが、庭でバイキングをしたり喫茶店などでお茶やケーキを食べたりするなど、食事が楽しみになる工夫をしている。また、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量をチェックしながら声掛けを行い体調管理・状態に気をつけ、食事量が少なく栄養がとれにくい方は、好きな物をとっていただくよう習慣に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立している方には声掛けをし、介助のいる方には職員が介助しながら口腔状態を確認し、その方に応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンをつかみ、トイレやポータブルトイレへの声掛けを行い、介助し、安全を考慮し必要に応じて2人介助、オムツ対応を考えながら支援をしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導してトイレでの排泄を支援している。オムツを使用していた利用者が、トイレ誘導することでトレーニングパンツの使用になった事例もある。皮膚疾患のある利用者には個別対応したり、状態に合わせてポータブルトイレを使用するなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の確認を毎日行い、水分量・食事量を考え、医療への相談や、センナ茶を使いながら予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は週3回行っており、入浴困難な方には船のバスや、リクライニング式のチェアーを活用しながら支援をしている。状態に応じ入浴の出来ない方には清拭を行っている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、1対1でゆっくりリラックスして入浴することができる。利用者の状態に応じて、リフト浴や機械浴、リクライニングシャワーチェアーなどを使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には職員が交代して声かけをしたり、タイミングや時間をずらしたりするなど、スムーズに入浴できた時の情報を職員間で共有し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの習慣を大切に日中でも休んでいただいている。就寝時間は個々に違うため、休まれるまでフロアにてテレビを観られたり、利用者同士お話を楽しんだりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期薬については職員が理解し、状態が変化し変更になる場合には、職員間での話し合いをし合い連絡ノートも活用しながら努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フェースシートの活用や日々の会話や生活を見ながら本人や家族の希望を聞き、気分転換が出来るよう支援をしている。また毎日のレクリエーションも考え、実行している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その方の希望に添えるよう買い物に出掛けたり、ドライブ等行っている。家族の協力も得てお出掛けが出来る方もおられる。 (外部評価) 季節毎に外出計画を立て、桜やコスモスなどの花見に出かけている。気候の良い時には、事業所周辺を散歩したり近所のコンビニに出かけたりしている。ドライブがてら買い物に行ったり、喫茶店等でお茶を楽しんだりすることもある。1階にあるデイケアのイベントに参加し、一緒に楽しむこともある。庭でのつくし採りは恒例となり、利用者の楽しみの一つである。また、家族と外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の関係、リーダー、サブが小遣い管理をしているが欲しい物がある時、外出時には職員と一緒に買い物をし購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望、訴えがある場合、職員と共に電話をするようにしており、耳が遠く話せない方は職員が利用者の用件を代理し家族へ連絡を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は清潔を保ち季節を味わってもらえる様に考え、お出かけ、行事の際の写真や利用者が作った物等を飾るなど工夫をしながら心地よい空間作りに努めている。	
			(外部評価) リビングは広く、大きな柱があり見えにくい所もあるが机やソファの配置を工夫している。広さを活かし、大勢の小学生を受け入れ一緒にイベントを楽しんでいる。また、昔の懐かしい古いタンスを置くなど、利用者の過ごしやすい雰囲気づくりをしている。壁には行事の写真を飾ったり、テーブル等には庭に咲いていた季節の花を飾ったりしている。	机やソファ、古いタンスを置くなど工夫をしているが、「広くて暗い施設のイメージが強い。」との訪問者の意見も聞かれることから、日常生活スペースとイベント時のスペースを使い分けて考えるなど、家庭的で明るい雰囲気づくりや、利用者が生き生きと楽しく過ごすことができる空間となる取組みを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人一人の思いや様子を見ながら、利用者同士のコミュニケーションがとれるよう職員が中に入り、レクリエーションやお話ができるよう工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室内の物品の配置については、本人が慣れ親しんだ物を置いたり、家族の思いも重視しながら居心地よく、ご自分だけの空間が持てるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 居室にはベッドと整理タンスを備え付けている。利用者は使い慣れた寝具やドレッサー、時計、ぬいぐるみなどを持ち込むことができる。利用者の中には、位牌を置いたり、家族の写真を飾ったりするなど、家族の協力を得ながら利用者に合わせて居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 毎日の生活の中で食事作りの手伝い（もやしの根切り）、食器拭き、洗濯物たたみ等、出来る範囲でしていただき、少しでも自立した活気ある生活を送っていただけるよう声掛けをし工夫している。	